

ぼうさい みくまじろ



No.12

H28. 11. 9 発行

みくまの支援学校
育友会 防災研修部

育友会が啓発ブース運営！ 「新宮市防災フェア」へ参加



11月6日（日）、新宮市立緑丘中学校で行われた「新宮市防災フェア」に学校と本校育友会が共催で啓発ブースを運営しました。本校の防災に関する取組をパネルで紹介したり、学校防災キャラクター「みくまじろ」の缶バッジ作りを行ったり



しました。天候も良く、たくさんの方々がブースを訪れました。準備していた取組を紹介する資料も無くなってしまふほどの状況でした。みくまの支援学校のことを知ってもらふ良い機会となりました。

「世界津波の日」 避難訓練を実施！

11月4日（金）、和歌山県「世界津波の日」地震・津波避難訓練に本校も参加しました。今回は、負傷者や崩落箇所を想定しての訓練でした。その後、「世界津波の日」について、「稲村の火」の話を中心にスライドを使って説明をしました。



体育館へ避難したあと、「世界津波の日」や安全に避難することについて学習しました。



新宮市防災フェア 多様な実働訓練や体験



「新宮市防災フェア」では、本校の啓発ブース以外にも多様な実働訓練や実演が行われました。



新翔高校の川原家（かわらや）組み立て体験



本校の缶バッジ作りは、子どもたちに人気がありました。



新宮消防による校舎3階からの被災者救出訓練

県議会 多田純一議員

本校の取組を視察

10月28日（金）午後、県議会議員・多田純一氏が来校し、本校の防災の取組について視察しました。5年前にも本校を訪れたとのこと。それ以降、防災に対する取組が進んでいるといった感想をいただきました。



みくまの方丈記 ⑩ ～自助から共助へ～



榎本校長先生による特別寄稿です。



6月のある日曜日の午前、宇久井海水浴場沿いに車を走らせていた。地域の人々が総出で海岸の清掃作業を行っているのが目に入った。最近、被災地で一般の人々や有名人がボランティアで活動されている様子が報じられている。紀伊半島大水害のときは当地でも大変お世話になった。以前は、ボランティア活動についてあまり耳にしなかった。阪神淡路大震災やナホトカ号重油流出事故あたりから広がってきたようである。

宇久井の浜そうじを遠くから眺めた。ふと、日本には昔から助け合いの文化があったことに気がついた。祭りの前の道普請や刈りあけ、春の堤防焼きやお花見、初夏の浜そうじ、頼母子講で行くお伊勢さん参り等。地域で当たり前ようになっていたから意識しなかったのである。いざというときの地域の防災力、共助の力の源泉になっていたのだろう。この地の 浜そうじ はもう何十年も続いているという。このような地域の文化は、みんなの協力で守り続けていかなければならない。